IPSJ Magazine

［巻頭コラム］

# CAMBRIC，7つのビッグトレンド時代の勝機とは

■齋藤ウィリアム浩幸

2017 年のトレンドとなる新技術は何か．ICT 産業にかかわって生きる人が，年末年始によく聞かれた質問ではないでしょうか．しかし，それが分かれば苦労はしません．まさか 1 年前，フィンテックやブロックチェーンのように難解な言葉がメディアを賑わすとは，誰が予想したでしょうか．AI（人工知能）は 60 年以上も前からある言葉でしたが，このわずか 1 年間の急激な進化と注目度の高まりには驚くばかりです．もしもこの先の 1 年の見通しに自信がある人がいたら．後から「そうなると思っていた」と自慢するだけではなく，自ら事業を起こしたり，運用によって一資産を築くことをオススメします．

ただし，いかに未来の見通しが難しい時代といっても，「この先どうなる？」と聞かれて「何ひとつ分からない」と返すのは（それが事実であっても）ぶっきらぼうに過ぎるかもしれません．ですから今日は，「キャンブリック」という言葉を覚えて帰ってください．綴りは英語で「CAMBRIC」．アメリカの著名ブロガーが提唱し，瞬く間に世界の共通言語として広がりを見せている新造語です．グーグルで検索してもまだほとんどヒットしないキーワードですから，情報通を気取るのにはうってつけの会話のタネとなるに違いありません．

「CAMBRIC」とは，どういう意味でしょうか．C はクラウド，A は AI，M はモビリティ，B はビッグデータ，R はロボティクス，I は IoT，C はサイバーセキュリティの頭文字．近年の ICT 産業の急発展を支える中核技術の総称で，あらゆる新技術は 7 つのメガトレンドである「CAMBRIC」から派生して創造されるという考え方です．この言葉は，漠然とした「何

■ 齋藤ウィリアム浩幸
起業家

1971 年米国ロサンゼルス生まれ．大学在学中に I/O ソフトウェアを設立．指紋認証など生体認証暗号システムの開発をし，2004 年会社をマイクロソフト社に売却，日本に拠点を移し，インテカーを設立．

かよく分からない新しいものがいっぱい溢れていく世界」といった未来へのネガティブなイメージを，体系化された秩序に落ち着かせる重要なキーワードとして一般化されていくことでしょう．

中でも，私が最重要視するポイントは，最後の C．あらゆる技術はネットワークに接続されており，サイバーセキュリティの支援なくして個別の発展は不可能です．7 つの中核技術は相互に影響し合い作用し合いますが，サイバーセキュリティほど全技術に不可欠な存在はありません．なのに世界中が苦労して，有効なソリューションがなかなか生まれないでいる．これは大きなチャンスです．

「CAMBRIC」の中で，最も遅れをとって，しかし最も重要で，だからこそ明確なブレークスルーが求められているのはサイバーセキュリティです．2017 年，メディアの注目を集めるような目新しい動きがあるとしたら，サイバーセキュリティはかなりアツイ分野ではないでしょうか．

特に，ディジタルとネットワークの時代に，ものづくり世界一の称号を失って苦心している日本企業にとっては重要な勝機です．自動車や家電の技術革新で培ってきた「安心・安全」に対するプライド，その DNA は，サイバーセキュリティの全世界的なインフラを設計するために不可欠の素養であり，再び「ジャパン・アズ・ナンバーワン」の時代の扉を開く根拠となることでしょう．